＜様式 6-5 学校教育活動支援事業成果報告書＞

【活動の主題】　「つながる集団」と「つながる学び」
【副題】　こつこつタイムの充実から広がる読書活動の世界

【学校名】　近江八幡市立　安土中学校

１　本校の概要

「つながる集団」と「つながる学び」をテーマに校内研究に取り組んできました。その中で、読書活動の充実や推進も校内研究を支える重要な要素としてとらえました。本校の課題として家での読書習慣がない・図書よりタブレットで学習する・文字が苦手・興味を持てる本がないなどがあがっていました。

これらの課題を解決すべく、教科の授業・学年全校の取組・委員会活動などを活用し読書活動を広げる活動を大切にしました。

２　取り組んだ内容

（1）　図書委員会による取組

朝読書（こつこつタイム）が充実するように、６月に「安中読書週間」を設定し、教員・生徒の本紹介カード作成や担任による本紹介、「タイトル集めゲーム」を実施しました。委員会で作成した POP を掲示したりコンクールに応募したりしました。学校図書館でのイベント企画では、しおりづくりや「本の豆まき」本探しを実施しました。豆に見立てた丸めた紙に書いてあるタイトルの本を書棚から探し出す取組で、普段手を伸ばさない棚を見る機会を仕組むこともできました。

（2）　授業での図書の活用

国語科の古典、ビブリオバトルの準備、理科の自由研究、社会科の歴史の単元などで学校司書に相談しながら関連図書を準備し活用しました。

（3）　ビブリバトルの実施

国語科での準備の後、学級での予選会を経て、12 月 12 日に学年ごとに実施。スライドも利用し工夫した発表会で、聞き手からも質問や感想を述べました。投票で決まった学年チャンプ本は、３学期始業式の全校生徒の前で発表しました。

（4）　学校司書・地域人材の活用

学校司書には、図書や掲示環境の整備など日常の学校図書館における業務の他、年度始の図書館利用や本についてのオリエンテーション、教員の図書を活用した授業の準備、生徒会図書委員の相談や委員会活動へのサポート、休み時間の学校図書館での関わり、本を手に取りやすい環境づくりの支援につながっています。

地域ボランティアによる朝読書時の読み聞かせや学校図書館開館時の見守りへの協力も継続していただいています。

３　活動の成果

（1）　生徒の読書活動への意識

学校図書館は、中学校のわずかな休み時間に学校司書や地域ボランティアが在室することにより、読書や本を借りに来るだけでなく、居場所としての役割も果たしています。その中で、目を引く本の配架や POP の効果、ビブリオバトルや本紹介などで本を探す生徒も増えてきました。実際、おすすめ本を読みたくなるかというアンケートで、ビブリオバトル後のアンケートでは、紙面での紹介だけでは 47.8%であったものが 66.7%に増えました。また、冬休み前の図書館の貸し出し冊数は市内でも多かったようです。

（2）　教職員の学校図書館利用

各教科の学習の補助的・発展的な資料とするなど、図書の活用の場面も見られました。２学期始と終わりの職員対象のアンケートでは授業などで学校図書館を利用したことがあると回答した職員は 64.3%から 90%に増加しました。学年の廊下にもブックトラックの配置や関連図書の展示が増えました。

教職員が学校図書館を利用することは、配置されている図書の種類にも関心を持つ機会となり、より利用しやすい学校図書館にしていくことにつながると考えます。